

■ 第63回住吉大社全国弓道大会

5月1日第63回住吉大社全国弓道大会が住吉大社特設射場に於いて開催され、参加者476名による熱戦が繰り広げられました。

開会に先立ち小笠原流三十一世宗家、小笠原清忠先生による「墓目」の奉射が、奈良時代の「朝服」を着装して行われました。

☆団体

◎学生の部

【男子】

- ①日高高校(柳澤祐希・横山凌太・山下巧真)
- ②甲南大(小林 睦・沼田智幸・田中彪太)
- ③信州大(有賀慶史・石川満範・森 祐大)

【女子】

- ①日高高校(永野杏奈・長谷祐希乃・柚瀬紋子)
- ②信州大(坂田あかり・横江まどか・小林咲子)
- ③甲南大(岩山穂乃花・濱中彩花・春木かなえ)

◎一般の部

【男子】

- ①奈良県(山口亮二・新子修平・辻本元威)
- ②徳島県(井内亮一・吉田佳史・鈴木泰仁)
- ③岡山県(吉田章朗・吉谷 勉・西村英信)

【女子】

- ①岡山県(村上真理・大森洋子・赤澤和子)
- ②兵庫県(村田さおり・藤井由涼菜・藤井泉)
- ③和歌山県(山崎涼子・今井 梓・西原照美)

☆個人

◎学生の部

【男子】

- ①石川満範(信州大)・②柳澤祐希(日高高校)
- ③大古凌也(天理大)・④今井雅基(紀央館高)
- ⑤山下巧真(日高高校)・⑥山本敦也(紀央館高)
- ⑦横山凌太(日高高校)・⑧檜尾 涼(天理大)
- ⑨西村知浩(天理大)・⑩田中彪太(甲南大)

【女子】

- ①坂田あかり(信州大)・②池田さとみ(甲南大)
- ③谷藤実希(天理大)・④長谷祐希乃(日高高校)
- ⑤名越こすも(神島高)

◎一般の部

【男子】

- ①草場康文(福岡県)・②田中康雄(和歌山県)
- ③新子修平(奈良県)・④小笠原長雅(兵庫県)
- ⑤畝本孝志(東京都)・⑥小栗宗志(静岡県)
- ⑦西村英信(岡山県)・⑧藤岡 順(奈良県)
- ⑨小原幸典(山口県)・⑩奥田佳和(三重県)

【女子】

- ①石本千夏(和歌山県)・②辻 紀子(徳島県)
- ③山崎涼子(和歌山県)・④藤井由涼菜(兵庫県)
- ⑤大森洋子(岡山県)・⑥田中真紀(山口県)
- ⑦赤澤和子(岡山県)・⑧原田喜美子(愛媛県)
- ⑨岡田順子(山口県)・⑩松村由喜子(奈良県)



小笠原宗家の墓目奉射



府連会長矢渡



男子競射



女子競射

■ 岸和田市春季総合体育大会(弓道)

5月11日岸和田市総合体育館弓道場に於いて第57回岸和田市民体育祭が開催されました。参加者94名。結果は次の通りでした。

◎選手権 小田一彦(加支多)

◎一般女子の部

- ①佐藤さつき(岸和田)・②吉田恭子(岸和田)
- ③澤根規代(吹田)・④野守彩香(岸和田)
- ⑤吉田恭子(岸和田)・⑥山内綾子()
- ⑦井ノ阪ふみ子(岸和田)・⑧金谷節子(朝日)

◎一般男子の部

- ①竹島昌典(万博)・②出田一男(八尾)
- ③山本 昭(加支多)・④平山博邦(岸和田)
- ⑤小田一彦(加支多)・⑥玉木利徳(八尾)
- ⑦徳永一輝()・⑧田端哲也(加支多)



優勝した竹島選手・佐藤選手・小田選手

(記事・写真: 塚本正雄)

■ 大阪府連春季例会

5月18日万博記念公園弓道場に於いて大阪府連春季例会並びに全日本勤労者大会・都市間交流スポーツ大会選手壮行会が開催されました。

参加者125名。競技結果は次の通りでした。

◎選手権 馬淵信幸(大教)

◎男子の部

- ①馬淵信幸(大教) ・ ②利武能照(真和)
③平野雅一(茨木) ・ ④里山良光(交野)
⑤高橋史郎(万博)

◎女子の部

- ①岩田 花(清和) ・ ②相楽晶子(吹田)
③澤根規代(吹田) ・ ④木村玲子(枚方)
⑤小畑かがり(豊中)

◎男子称号者の部

- ①佐藤誠一(茨木) ・ ②津田 悟(高槻)
③松本潤一郎(住吉) ・ ④福永芳則(吹田)

◎女子称号者の部

- ①小西充子(万博) ・ ②山田直美(高津)
③船津 綾(茨木)

◎団体の部

- ①茨木市弓道協会 ・ ②真和弓友会
③大阪高津弓友会



茨木市弓道協会選手の皆さん

■ 全日本弓道選手権選手一次選考会

5月25日吹田市立武道館弓道場に於いて全日本弓道選手権大会出場選手の一次選考会が開催されました。一次選考の結果は次の通りでした。選考された選手の皆さんは6月29日の決定選考会に出場します。

◎男子 7名

- 福永芳則(吹田) ・ 野中秀治(万博)
石丸 信(朝日) ・ 佐伯秀男(高槻)
木戸健陽(朝日) ・ 佐藤誠一(茨木)
船津卓三(茨木)

◎女子 5名

- 松本利津子(高槻) ・ 山田直美(万博)
篠田淳美(堺) ・ 北川浩子(豊中)
小松正美(朝日)

☆ 会長雑感 ☆



大阪府弓道連盟会長
中野英夫

過日開催されました、府連の月例会の時に如何な物かと感じた事を申し述べ、皆さんにも考えて頂きたいと筆をとりました。事は例会開催にあたり、教士・錬士合格者の免状・記章の伝達授与が行われまして、その時の事です。

教士の先生は和服の正装で免状を受けられ皆さんから祝福の拍手を受けられました。

錬士の先生はお二人とも代理人が受領されました、従ってそこに居合わせた会員の方々は錬士の先生の顔を知りません。聞けば止むにやまれぬ理由ならばいざ知らず、お二人は東海地区の臨時中央審査へ六段受審に出掛けられたとのことでした。免状・記章の伝達は府連会員が共に合格を喜び、共に祝い、其の人がこれから指導者(先生)として活躍される事を皆の前でお披露目する場所でもあり、皆もこの後、新しく指導者(先生)となられた方達の指導に従う事を誓う場でもあるわけです。

「武道(弓道)は礼に始まり、礼に終わる」ともいわれています。お二人はすぐに上位を目指さなければならなかったのでしょうか？

府連での伝達式は大切な事ではないでしょうか？自己中心的な考えから伝達式を無視して審査を優先させたお二人にとって中央審査であると言う事は決して免罪符にはならないし、これほどの無礼で失礼な対応は無いでしょう。

錬士の面接試験で「指導者としての自己修練の在り方」について質問を受けた方もあるそうです。これをどのように捉えますか？

これからのお二人が指導者として、後進の為に、どのように、何を指導してゆくのだろうか不安でなりません。皆さんはどのように考えられますか？



5月6日 住吉大社「卯の花神事」神楽